ＡＩと共存する５年後の未来

～必要な思考のレッスンとは～

■日時：2023年10月24日（火）　13：00～14：30
■会場：ホテルグランヴィア和歌山 6F ル・グラン
■講師：サイエンス作家　竹内　薫 氏

こんにちは。今日は90分、お時間を頂戴しまして、ＡＩと共存する未来についてお話をしたいと思います。

今、ＡＩが来ています。そして、第４次産業革命がはじまり進行中です。

かつて私は「科学予測は８割はずれる」という本を書きました。

どうなるか分からないことは多くあり、その為には幾つかのシナリオを前もって描くべきであると。いわゆる仮説ですね。幾つかの仮説を立てておいて、そっちの方向にもし進んでいくようであれば、その仮説でいってみようという。事前に決めることができない以上、頭で想像する、仮説を考えていく、そういった考え方がやはり今必要なのかなと思います。

そんな思考が必要な時代の中で、日本の学校の教育システムは他の先進国と比べて遅れてしまっていると思いますね。日本は暗記型のスキルが非常に有用だった時代の覇者でしたが、現在の先進各国では、完全に第４次産業革命型の教育に舵を切っています。

ペーパーテストや暗記型の学習をやめて、探求型・プロジェクト型学習、アクティブラーニングに舵を切っているのですよ。それはＡＩが来ている以上、暗記型のスキルは今後ＡＩが全部やるようになります。Ｇ７の国の中で日本だけが唯一、その切り替えがうまくできていない。５年先、10年先大分差がついて

くると思います。

第４次産業革命ということで、レジがＡＩになっています。お店に入った瞬間からカメラで、人工知能がお客さんの購買行動を全部解析し、お店を出たら課金される仕組みです。あと、宅配のＡＩロボットも普及していくでしょう。

そして、自動運転タクシーや新東名での輸送トラックも自動運転をするということがもう決まっています。

翻訳もＡＩが導入されてきています。商業翻訳の下訳の仕事は、これまで３か月かかっていましたが、ＡＩがやると３分間です。

今見ていると、いろんなＡＩがどんどん導入されてくるのですが、全部に共通しているのは、バージョンアップで一定の水準を超えると、突然有用な方法として使われ始めるということ。それ以前は使い物にならないんですよ。これがいつ来るかは分かりませんが、どこかの仕事の現場で「あれっ、使えるじゃん」という瞬間が突然来るのです。

これが恐らく今到来している人工知能の革命ですね。いかに早く察知して、自分の分野で、このバージョンアップが来た瞬間に取り入れるかが大事で、半年後だと競争に負けてしまうわけですね。

産業革命というのは基本的に人類の進化です。第４次産業革命は、過去の産業革命以上にコスト面での効果が大きく、資本主義の世界においては、今後もさらに加速して進んでいくでしょう。

それでは、これで私の講演は終わりとさせていただきます。ご清聴どうもありがとうございました。（了）